

## 祝 辞

農牧漁業部長  
何 康

日本熱帯農業研究センター主催による国際シンポジウム「中日共同水稲育種」が開催されるにあたり、大会および会議に参加された中国、日本およびその他の産米国と関係国際組織からの代表の方々に祝辞を申し上げます。

中国と日本は世界の主要水稲生産国で、しかも両国とも米を主食としています。したがって、水稲生産を向上させ、品質を改良することは両国の経済の発展と国民の生活水準の向上に対して重要な意味を持っています。

遺伝資源利用による水稲育種—中日共同研究—は両国の農業担当大臣の直接の協議によって開始された最初のプロジェクトで、1982年に実施されて以来、中国と日本両国政府の支持と中日双方の多くの方々の御努力により今日まで着実に進展を遂げてきたことは誠によろこばしいことです。このように国家と国家との間、研究者と研究者との間でおたがいに信頼しあい、各自の長所を発揮することによって農業および他の分野における共同研究を行うことは国民の生活水準の向上と世界和平のために貢献できることを証明しております。中日共同研究はこの意味で国際科学技術共同研究のモデルになるべきであると思えます。

中日両国は一衣帯水の隣国で、中日両国民および科学者は「互惠平等、相互信頼、長期安定」の四原則のもとで互いに協力し、子々孫々の友好関係を築いていくことと確信しております。

中国は他の友好国家、特に発展途上国とも農業技術分野の共同研究を行い、これらの国々の経済の繁栄に役に立ちたいと願っております。

中日共同による水稲育種プロジェクトは今後も引き続き継続されますが、この共同研究がより大きい成果を取めることと、シンポジウムの成功を心より祈ります。